

みずほマーケット・トピック(2020年7月31日)

週末版

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

※「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。『中期為替相場見通し』をご参照下さい。

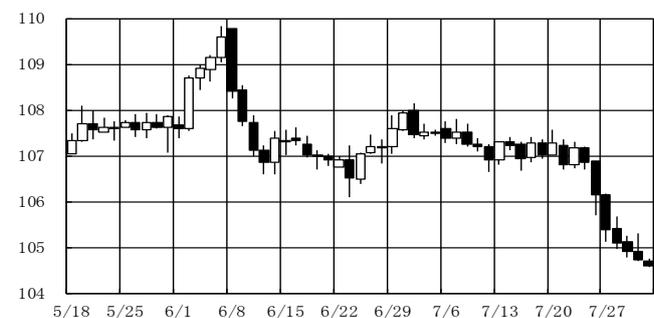
1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円相場はドル安が進展する展開。週初 27 日 106 円ちょうどでオープンしたドル/円は仲値にかけて一時週高値の 106.20 円をつけたが、その後はじり安の展開。米中对立の激化、米国での新型コロナウイルス感染拡大、金価格の史上最高値更新によって、ドルが売り込まれた。28 日は日経平均株価や中国株の上昇を眺めて底堅く推移。金先物価格の上昇が一服した中で、一時 105 円台半ばまで回復。米国時間に米株先物が軟化する動きを受けた円買いが強まり、その後発表された米 7 月消費者信頼感指数が前回から大きく低下し予想も下回ったことを受けて、ドル/円は一時 105 円を下抜けた。29 日は、財務省幹部による円高を警戒する発言が伝わって小幅に値を戻したが、ドルが対ユーロで売られ、再び 105 円を下抜ける展開。FOMC では声明文内に特段驚くような内容はなく、パウエル FRB 議長の記者会見では、引き続きハト派な姿勢が示されると、ドル売りが持ち込まれ 104 円台後半での値動きとなった。30 日は米 4~6 月期 GDP の大幅減速が報じられ、追加の景気対策案が共和党と民主党の間で合意に至らなかったことが嫌気されて上値の重い推移となった。本日は週安値を更新し、104.60 円付近での取引となっている。
- 今週のユーロ/ドル相場は、大きく上昇する展開。週初 27 日、1.17 台半ばでオープンしたユーロ/ドルは、急速なユーロ買いドル売りの動きが継続し、1.17 台後半を堅調に推移。28 日は金価格が反転下落する展開に、ドル買いが持ち込まれたことから、一時週安値の 1.1699 まで下落した。その後、ドルの買い戻しは後退したが米株式市場が軟化する中、ユーロ/円が下落する動きにユーロ/ドルも上値を抑えられ、1.17 台前半の推移が続いた。29 日は FOMC の結果発表を控え、ドル売りが海外市場で強まったことから、ユーロ/ドルは 1.17 台後半まで上昇した。声明文発表後も再びドル売りが優勢となり、パウエル議長のハト派姿勢が確認されると更に上伸し、一時 1.18 台に到達した。30 日は米 4~6 月期 GDP の結果や米国の追加景気対策が決まらず、じり高の展開が続いた。本日は週高値を更新し 1.18 台後半で推移している。

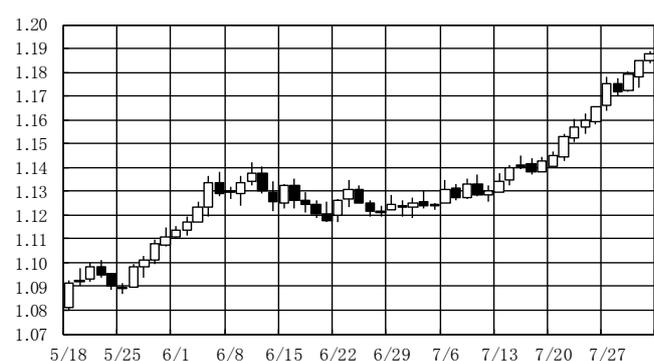
今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週			
		7/24(Fri)	7/27(Mon)	7/28(Tue)	7/29(Wed)	7/30(Thu)
ドル/円	東京9:00	106.84	106.00	105.28	105.11	105.04
	High	106.87	106.20	105.68	105.24	105.30
	Low	105.68	105.12	104.96	104.77	104.68
	NY 17:00	106.14	105.38	105.09	104.92	104.72
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1595	1.1651	1.1767	1.1719	1.1781
	High	1.1658	1.1781	1.1773	1.1807	1.1848
	Low	1.1582	1.1640	1.1699	1.1715	1.1732
	NY 17:00	1.1655	1.1752	1.1718	1.1793	1.1848
ユーロ/円	東京9:00	123.87	123.49	123.87	123.18	123.73
	High	123.92	123.90	123.95	123.77	124.17
	Low	122.85	123.24	123.00	123.06	123.35
	NY 17:00	123.70	123.85	123.00	123.70	124.07
日経平均株価	-	22,715.85	22,657.38	22,397.11	22,339.23	
TOPIX	-	1,576.69	1,569.12	1,549.04	1,539.47	
NYダウ工業株30種平均	26,469.89	26,584.77	26,379.28	26,539.57	26,313.65	
NASDAQ	10,363.18	10,536.27	10,402.09	10,542.94	10,587.81	
日本10年債	-	0.02%	0.02%	0.01%	0.02%	
米国10年債	0.59%	0.61%	0.58%	0.58%	0.54%	
原油価格(WTI)	41.29	41.60	41.04	41.27	39.92	
金(NY)	1,897.50	1,931.00	1,944.60	1,953.40	1,942.30	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 米国では、3日(月)に7月ISM製造業景気指数、5日(水)に7月ISM非製造業景気指数の発表を控える。前回6月の結果はそれぞれ52.6、57.1となり、5月と比較して製造業は3.0ポイントの改善、非製造業は11.7ポイントの改善となり、共に景気の拡大・縮小の境目となる50を上回った。製造業について構成項目の内訳を見ると、生産指数、新規受注指数の大幅な改善が目立った。また、新規輸出受注指数や雇用指数も改善したものの50を下回り、今後に改善余地を残す結果となった。非製造業についても、生産指数、新規受注指数の伸びが目立った。また、サービス部門の活動に関する規制が5月に大幅に緩和されたことで改善幅は製造業を上回る結果となった。7月については、引き続き段階的な改善が見込まれているが、新型コロナウイルスの感染再拡大の影響で一部業種では企業活動が制限されている点が下方リスクとして指摘されている。なお、ブルームバーグの予想では、7月の結果をそれぞれ53.6、55.0としている。そのほか、7日(金)には7月雇用統計の発表を控えている。
- 欧州では31日(金)にユーロ圏4~6月期GDP(1次速報)の発表を控える。1~3月期のGDPは前年比▲3.6%(前期比:▲3.1%)となり、統計が開始された1995年以来最大の落ち込みを記録した。欧州委員会は今月上旬に中間経済見通しを発表し、今年の成長率の予想を▲1.0%pts下方修正して前年比▲8.7%とした。景況感に関しては直近回復傾向にあることから、成長率は4~6月期に底を迎えてそれ以降は徐々に回復する見通しが強まっている。一方、欧州委員会の予想は新型コロナウイルス感染第二波の到来を前提としない見込みとなっており、更なる下振れの可能性も依然存在している。なお、ブルームバーグの予想では4~6月期の成長率を前年比▲14.5%(前期比:▲12.1%)と見込んでいる。

	本 邦	海 外
7月31日(金)	・6月失業率/有効求人倍率 ・6月鉱工業生産(速報)	・米6月PCEコアデフレーター ・ユーロ圏4~6月期GDP(1次速報)
8月3日(月)	・1~3月期GDP(確報) ・7月製造業PMI(確報)	・米7月ISM製造業景気指数 ・ユーロ圏7月製造業PMI(確報)
4日(火)	・10年物国債入札	・米7月製造業受注/耐久財受注 ・ユーロ圏6月PPI
5日(水)	・7月サービス業PMI(確報)	・米7月非製造業景気指数 ・米7月ADP雇用統計 ・米6月貿易収支 ・ユーロ圏7月サービス業PMI(確報)
6日(木)	—————	・英 金融政策会合
7日(金)	・6月景気動向指数(速報)	・米7月雇用統計

【当面の主要行事日程(2020年8月~)】

ECB 政策理事会 (9月10日、10月29日、12月10日)
 米 FOMC (9月15~16日、11月4~5日、12月15~16日)
 日銀金融政策決定会合 (9月16~17日、10月28~29日、12月17~18日)
 G20 財務相・中央銀行総裁会合(10月15~16日)

市場営業部・金融市場部
 チーフマーケット・エコノミスト
 唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuohobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuohobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2020年7月28日	「ドル売りの受け皿」がテーマ～過去最大の欧米逆転～
2020年7月27日	ユーロ上昇の理由～金利差縮小よりドル過剰感～
2020年7月22日	週末版
2020年7月21日	欧州銀行の貸出態度調査～ロックダウンの深手～
2020年7月20日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2020年6月分) 臨時EU首脳会議で透けて見えた「第三の亀裂」
2020年7月17日	週末版(ECB政策理事会を終えて～PEPPは使い切り、「2つの機能」に向けて～)
2020年7月16日	ユーロ相場の近況について～上昇の瀬戸際～
2020年7月15日	臨時EU首脳会議～交錯する「2人の議長」～
2020年7月14日	円相場の基礎的需給環境の現状と展望
2020年7月13日	ECBプレビュー～ラガルドインタビューは現状維持を示唆～
2020年7月10日	週末版
2020年7月9日	カレンシーボードに迫る脅威～米国の「諸刃の剣」～
2020年7月8日	増枠分の天井に近づいたECBの拡大資産購入プログラム(APP)
2020年7月7日	対外直接投資はこれからも増えるのか？
2020年7月3日	週末版(明らかになる「物価差なき世界」～金利と共に失われる為替の変動要因～)
2020年7月2日	金価格が上がっている理由～リスクオフという方便～
2020年7月1日	円相場の需給環境～ストック円高、フロー円安～
2020年6月26日	週末版(IMF、GFSR改訂を受けて～「実力以上の株価」という必要悪～)
2020年6月25日	ユーロ相場はなぜ堅調なのか？
2020年6月23日	メルケル首相に託されたEU復興基金の先行き
2020年6月22日	ECB、「真のバズーカ」と「影の政策金利」
2020年6月19日	週末版
2020年6月18日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2020年5月分) 香港ドル相場の現状と展望～ベッグ崩壊の現実的な可能性は～
2020年6月17日	二番底はメインシナリオの1つとして見るべきか
2020年6月15日	29年連続「世界最大の対外純資産国」の読み解き方
2020年6月12日	週末版(EU首脳会議プレビュー～メルケル首相への花道論も～)
2020年6月11日	FOMCを終えて～当分失われそうなドル/円のボラティリティ～
2020年6月9日	米国はいずれ通貨政策に訴えかけるのか？～特権の行使～
2020年6月8日	金利上昇を容認したFRBと視野に入るYCC
2020年6月5日	週末版(ECB政策理事会を終えて～2022年末までバランスシート残高は高止まり～)
2020年6月4日	明らかにされたパンデミック緊急購入プログラムの全貌
2020年6月3日	米個人消費・所得、急変動に透けて見える日本化の胎動
2020年5月29日	週末版(ECB政策理事会プレビュー～PEPPに孕む隠蔽リスク～)
2020年5月27日	最近の元安・ドル高相場の読み方
2020年5月26日	IMF「国際金融安定報告」続報から読み取れるもの
2020年5月22日	週末版(EU復興基金設立の現状と展望～立ちはだかる「新ハンザ同盟」の壁～)
2020年5月20日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2020年4月分) コロナショックは反グローバルの「とどめ」なのか？
2020年5月19日	アフターコロナの世界で定着しそうな「皮肉な株高」
2020年5月15日	週末版(マイナス金利を正当化したECB論文～「次の一手」としての深掘りを予見させるものか？～)
2020年5月14日	不安を吐露したパウエル議長とマイナス金利の足音
2020年5月12日	独憲法裁判所の判断とECB買入れ近況について
2020年5月8日	アフターコロナはインフレか？デフレか？
2020年5月7日	アフターコロナで注目したい世界の「日本化」兆候
2020年5月1日	週末版(ECB政策理事会を終えて～形骸化する政策金利と「次の一手」～)
2020年4月28日	日銀金融政策決定会合を受けて～同調圧力への対応～
2020年4月24日	週末版(原油急落に感じる株・為替市場との差異～原油に「ごまかし」は効かず～)
2020年4月22日	拡張財政と「ドルの信認」～目先の下落は濃厚か？～
2020年4月21日	資本逃避スピードはリーマンショックの倍に～IMF報告～
2020年4月17日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2020年3月分) 週末版(「The Great Lockdown」で最も傷が深いのは欧州か？～IMF世界経済見通し～)
2020年4月15日	ECBの「次の一手」はYCCも視野に～工夫も必要～
2020年4月14日	「超リスクオフ」から「リスクオフ」へ～改めて米金利を意識～
2020年4月10日	週末版(明らかになったECB資産購入の実情～このペースではあと半年が限度～)
2020年4月9日	英国のEU離脱はどこへ～移行期間は延長不可避の情勢～
2020年4月7日	「金利差なき世界」のあるべき視座～big picture～
2020年4月6日	「悲観の極み」の中で「光」をどう見出すべきか
2020年4月3日	週末版(「令和元年度 企業行動に関するアンケート調査」を受けて～かすかに暗雲漂う円相場～)
2020年4月2日	今でも「危機対応のフロントランナー」の日銀
2020年4月1日	過去最大のスタートダッシュを切ったECB
2020年3月30日	ドル高の裏にある新興国通貨安～半分はメキシコ由来～
2020年3月27日	週末版(EUが直面する「第三の危機」～債務、難民そして疫病～)
2020年3月26日	EUに楔を打ち込む中国～マスク外交と侮れず～
2020年3月25日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2020年2月分) リスクシナリオも練り直し～日米金利差逆転というリスク～
2020年3月24日	「ドル化する世界」と新興国通貨の選別
2020年3月23日	「08年型のドル高」と円の「2大ステータス」
2020年3月19日	週末版(踏み込んだECB、パンデミック緊急資産購入プログラム～「抜かすの宝刀」も抜かれるのか？～)
2020年3月18日	FOMCプレビュー～「不要不急で自減」は予定通り？～
2020年3月17日	ECB政策理事会レビュー～胆力と失望の狭間～
2020年3月13日	週末版
2020年3月11日	ECB政策理事会プレビュー～実質的なデビュウ戦～
2020年3月10日	日銀の「次の一手」を考える～GPIFとの共同戦線は？～
2020年3月9日	ドル安相場の当然の帰結～疫病は契機に過ぎず～
2020年3月6日	週末版
2020年3月5日	欧州難民危機再び？～「見えない脅威」と「見える脅威」～
2020年3月4日	不要不急の利下げで自減したFRB
2020年3月3日	各国政府・中銀の政策協調姿勢を受けて
2020年3月2日	最強通貨に返り咲いた円～年初末変化率がプラスに～
2020年2月28日	週末版(メインシナリオに関するリスク点検～疫病リスク、米利下げ、円高～)
2020年2月27日	健在だった「安全資産としての円買い」と加速する悲観
2020年2月21日	週末版(急避されるユーロ～通貨安政策として先鋭化するマイナス金利政策～)
2020年2月20日	円急落は「日本売り」の結果なのか？ 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2020年1月分)
2020年2月19日	危機モードが続く為替市場と無国籍通貨「金」の上昇
2020年2月18日	ユーロ圏経済の現状～中国とユーロ圏が風邪を引くと・・・～
2020年2月14日	週末版
2020年2月13日	それほど信頼できない「3月円高説」の実情
2020年2月12日	流動化し始めたドイツ政局～メルケル退陣まで1年半余り～